

2023 年 8 月 31 日

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役  
渋谷 健

## 第 21 回「新しい資本主義実現会議」コメント

## 1. 新しい資本主義の成果の測定

◎新しい資本主義は、人への投資、労働市場改革など今までの時代の資本主義の構造に対して新たな時代への「成長と分配の好循環」という大転換を促進する政策であると理解している。したがって、四半期速報値など短期的な経済指標では新しい資本主義の真の成果は測定できなく、実施される政策の有効性の判断が課題である。

◎ただ新たな時代へ大転換するということは、まさに「インパクト」を目標としていることであり、「セオリー・オブ・チェンジ」というロジックモデルを応用して新しい資本主義の有効性の「道筋」を可視化する試みを提案する。



ご参照:「インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック」

GSG 国内諮問会議 IMM ワーキンググループ

<https://tinyurl.com/24sbjict>

## 2. 「資産運用立国」の重要事項

◎運用の「高度化」という言葉でお茶を濁すことなく、最終的アセット・オーナーである一般個人に「リスク・リターン」など資産形成のための土台作り(投資教育)を、新設される予定の金融経済教育推進機構などを通じて大中小企業の職域内に徹底すべき。

◎資産運用立国の英訳を「Asset Management Nation」など直訳して、外国人にとって意味不明な表現にならないよう強く要望する。私案: CMI (Capital Mobilization Initiative)、ABC (Asset Building Capacity) Plan, 等。

◎新興運用会社という「金融スタートアップ」も新しい資本主義のエコシステムで不可欠であるということに焦点を当てていただきたい。官民の金融機関が「一号ファンド」に出資した案件数・金額を年次の情報開示の対象にすることを検討をお願いしたい。

## 3. 「インパクト」の波が到来している

◎民間コンサルティング会社主催の「インパクト加重会計(IWA)と PBR モデルによる非財務取組の財務インパクトの可視化」のウェビナーに登壇したところ、800 名超が視聴者として参加した。(インパクトの要である人的資本経営セミナーの登壇も数多い)

◎G7 議長国である日本の働きかけにより、広島サミット首脳コミュニケに「「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ」(Triple I for Global Health)が承認され、9 月の国連サミットのサイドイベントとしてフレームワークが発表される予定。

◎これらの流れは、「インパクト」という概念が 2022 年、2023 年の骨太方針に明記されたことの成果である。新しい資本主義の議論で生じた、新しい企業価値の定義の試みが始まっており、また世界で日本の「インパクト」の立ち位置が向上している。